



～ 夢ひとすじに ～

# 宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 2 5 年 度 第 3 号  
平成 2 5 年 5 月 3 0 日 ( 木 ) 発行  
さいたま市立宮原中学校  
メールアドレス  
miyahara-j@saitama-city.ed.jp  
ホームページアドレス  
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>



## ケンちゃんの死から想うこと

校長 <sup>やま</sup> <sup>した</sup> <sup>せい</sup> <sup>じ</sup>  
山下 誠二

5月18日に開催いたしました体育祭では、素晴らしい天候のもと、多くのご来賓、保護者の皆様に来校していただき、生徒の熱い動きをお見せすることができたのではないかと思います。また、今年は小学生種目（パン食い競争）を計画したところ、100名以上の参加者があり、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

さて、31日からバスケットボール男子、新体操を皮切りにさいたま市の中学校総合体育大会が始まりました。昨年度の新人体育大会の結果を一つでも上回れるように期待しています。ぜひ、保護者の皆様には、会場に足を運んでいただき、声援をお願いいたします。

話は変わりますが、我が家の犬が、生まれて初めて散歩に出かけたときに最初に出会ったケンちゃん（柴犬）が、5月27日に3年間という短い生涯を終えました。ブリダさんから買い受けた直後に腎臓病を患っていることがわかったそうです。よって、朝、夕の散歩のときは、500mlのペットボトル3本分の水を必ずもって飲ませないと悪化してしまう、そんな病気でした。ケンちゃんの死から思ったことは、「忠犬八公」のことでした。「一番有名な犬は？」と問われれば、南極で生き抜いた樺太犬「タロ」「ジロ」を挙げる人もいるでしょう。中学生や若い世代の方は、携帯電話のCMに登場する白い北海道犬の白戸家の「お父さん」を思い浮かべるかもしれません。私の場合は、「忠犬八公」です。八公は、本当に飼い主の上野先生を待っていたの？この疑問に思う人も多いことでしょう。これに対して、実は「やきとりが目当てで出かけて行ったらしい」と答える人も多く、近年八公の美談はつくりものであったと考える傾向もあるようです。しかし、大切なことは、八公は、上野先生が亡くなった後も、毎日のように渋谷駅で待っていた、ということではなくて、犬と人間との間に結ばれた絆ではないかと思えます。だから、八公が何の為に渋谷駅に毎日通っていたのかを詮索することではなく、実際に八公と上野先生がどれほど愛し合っていたかを知ることが必要だと思えます。やきとりを食べたから駄犬。食べなかったから忠犬という問題ではない筈です。実際、八公はやきとりが好物で、有名になってからは、よく見物客から買って貰っていたようです。だれだって、おいしいものが食べられるのは嬉しいし、自然な感情です。私は、八公がやきとりをおいしそうに頬張っている姿を思うと、むしろ心が和むように思えます。そして、八公は上野先生が大好きだった、上野先生も八公に慕われていた、それだけは確かだと思います。犬が飼い主を慕うのは八公だけではない、どんな犬でも飼い主が犬を裏切らず愛情を持って接してやれば、必ずどの犬も「忠犬八公」になるものです。犬にとって最も幸せなことは、愛情をかけてくれる飼い主がいつもそばにいてくれることであり、自分を認めてくれる飼い主とともに暮らせることだと思います。「犬と同じにするな」と言われるかもしれませんが、子どもも同じで愛情をかけてくれる大人が身近に多くいることで大きく成長していくのではないかと強く思った日でした。

\*ちなみに渋谷駅前の銅像の除幕式（S9.4.21）には、八公自身も参加しています。その銅像は、[第二次世界大戦](#)の際に金属供出として溶解され、[機関車](#)の部品となり、[東海道線](#)を走っていたそうです。よって現在の銅像は、二代目です。

